

「第1回熊本県立大学・祥明大學校学術フォーラム」報告 フォーラム開催にあたって

馬場 良二（熊本県立大学教授）

2008年9月4日の木曜日に、私たちは韓国の仁川空港に降り立ちました。韓国の文化探訪団として祥明大學校に向かう短期研修団の学生9名と文学部日本語日本文学科の半藤英明教授、山崎健司教授、そして、馬場です。入管の審査を終え、荷物を取り、円をウォンに換えて自動ドアを出ると、祥明大學校のホームステイファミリーが待っていました。「はじめまして」とは言いません。学生たちは、「〇〇ちゃん」と言いあいながら近づき、手を取りあっています。祥明大學校と本学との交流はすでに20年にわたり、とくに学生間の交流は順調で、すでに本学のキャンパスで知り合っている学生が多くいるのです。

私たちが韓国へ行ったのは、祥明大學校で開催された、第1回「熊本県立大学・祥明大學校 学術フォーラム」に参加するためです。

そのフォーラムのプログラムの冒頭には、祥明大學校の副総長丘冀憲（グ・ギホン）教授が以下のように書いておられます。

熊本県立大学と韓国祥明大學校は姉妹校として、短期交換留学生をはじめ、短期語学研修団や韓国文化探訪団および教育実習生を相互に派遣しているなど、学生交流においては二〇年にかけて着実になおかつ活発な国際交流を行っております。これに加え、今回、第1回熊本県立大学・祥明大學校学術フォーラムの開催により、長年の念願であった両校における教員同士の学術交流がついにその一歩を踏み出すことになりました。今年は学術フォーラムの開催を記念すべく、「日本語と日本文学をみる、二つの視点」というテーマをもって、4人の先生が両国に関わる日本語および日本文学のさまざまな問題を探ることになりました。これは日韓における日本語学、日本文学研究の発展におおいに寄与するとともに熊本県立大学と祥明大學校との交流をさらに盛んなものにするものと存じます。



副総長、丘冀憲氏のあいさつ



半藤、韓、山崎、金の4氏

フォーラムの目的は、「日本語学及び日本文学研究の国際交流に寄与する」、「熊本県立大学と祥明大学校との交流をさらに盛んなものとする」です。第一回のテーマは、「日本語と日本文学をみる、二つの視点」で、2008年9月5日（金）午後1時から開催されました。

まず、半藤英明教授が「日本語助詞「は」と題目」で話され、韓先熙（ハン・ソンヒ）教授「一般的、事実的な条件表現の「と、たら、ば」の習得について」、休憩をはさんで、山崎健司教授「『萬葉集』遣新羅使人歌群－実録と脚色－」、金裕千副教授「平安文学に見られる「高麗」とつづきました。

なお、2009年度は6月末に本学で第2回フォーラムを開催いたします。